

# セネガル国 非感染性疾患対策強化プロジェクト

通称：Aaru Ci MNT (アーロウチ・エム・エヌ・ティ)

## ニュースレター第7号

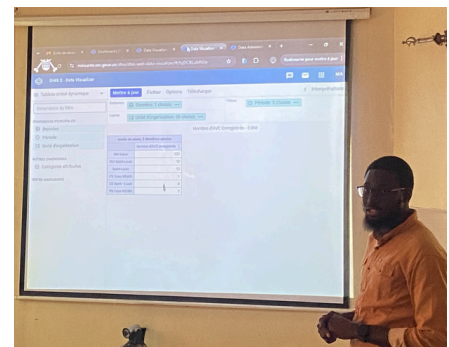
2026年3月発行

### 多様な取組を通じた非感染性疾患（NCDs）関連データ管理の改善

NCDsに関するデータ管理を改善するために、3つの活動を行いました。具体的には、高血圧症・糖尿病の患者を継続的に管理するためのデジタルツール「NCDsトラッカー（Tracker MNT）」の機能の見直し、保健医療データ電子プラットフォーム：県保健情報システムDHIS2を用いたデータ報告の改善、そして州保健局による定期的な巡回指導（スーパービジョン）を通じた保健施設レベルの課題の把握と必要な支援の提供です。

#### DHIS2 NCDs Tracker評価ワークショップ

2026年1月、ジュールベル州保健局にて、標記評価ワークショップを開催しました。このワークショップでは、サン＝ルイ州で試験的に行われたパイロット事業の成果が共有されました。14の医療施設で、1,205人の患者がトラッカーに登録され、診療データの記録方法がそろい、患者の継続的なフォローアップが改善されたことが確認されました。さらに、グループワークを通じて、NCDsトラッカーをより使いやすくするための提案をまとめました。これらの提案は、医療従事者の負担を減らすこと、入力しやすくすること、データの正確さと抜け漏れの防止を高めることを目的としています。今後は、NCDs担当部署が中心となりシステムの改善を進めるとともに、対象州および保健区での利用を広げるための具体的な方法を検討していく予定です。



NCDsトラッカーの  
プレゼンテーション



グループワークで協議した改善提案の共有

#### ジュールベル州保健局による糖尿病・高血圧の糖尿病・高血圧の診療および管理およびNCDsデータ管理のスーパービジョン

2026年1月26日から2月6日にかけて、ジュールベル州の4保健区の保健医療施設を巡回するスーパービジョンを実施しました。合計106の医療施設を訪問し、171人の医療従事者に対して、医療機器や薬の不足状況の確認に加え、診療の質やNCDsデータの管理状況を確認しました。その結果、基本的な医療機器はおおむね整っていることが分かりましたが、データ管理については引き続き改善が必要な点が見られました。たとえば、心臓や血管の病気のリスク評価の実施率は46%にとどまり、DHIS2への報告の期限内提出は43%、データ入力率は65%と、十分とは言えない状況でした。今回の確認により課題が明確になったため、今後は、データの正確さと信頼性を高める取組をさらに強化していく予定です。

#### DHIS2におけるNCDsデータの集中入力会議

2025年12月4日、バンベイ保健区に、32の保健ポストの責任者が集まり、DHIS2へのNCDsデータをまとめて入力する「集中入力デー」を実施しました。この取組により、NCDsデータに関する基本的な考え方や入力方法の理解が統一され、2025年のNCDsデータの入力率も77.5%から84.6%へと向上しました。



データ集中入力デー



スーパービジョン後、保健ポストへ改善点など提言の共有

# コミュニティレベルにおける保健ガバナンスの強化

## NCDs対策を支える保健開発委員会（Comité de Développement Sanitaire : CDS）

2026年1月、バンベイ保健区において、CDSを対象に高血圧症および糖尿病の予防や地域でのモニタリングに関する研修を2回実施しました。35のCDSやCDSネットワークから合計69人が参加しました。研修では、まずNCDsの深刻さと地域への影響について理解を深め、そのうえで、組織の運営（ガバナンス）やお金の管理、地域での活動計画の立て方について学びました。これらは、地域で健康チェックや啓発活動を主体的に進めるために欠かせないスキルです。

<b>69</b>	<b>35</b>	<b>2</b>
研修参加者数	参加CDS数	セッション

今後は、2026～2027年度の活動計画にNCDs対策を組み込むことや、患者同士が支えあうグループの設立、さらに地域で安定的に医療活動を支える資金確保に向けた働きかけを進めていく予定です。これらの取り組みにより、地域社会におけるNCDs対策の強化が期待されます。



高血圧および糖尿病予防活動のプレゼンテーション



グループワーク

## 中間活動報告および本邦研修成果の共有



NCDs課 課長によるプロジェクト第1期の成果を発表



COPIL会議における意見交換と討議のセッション

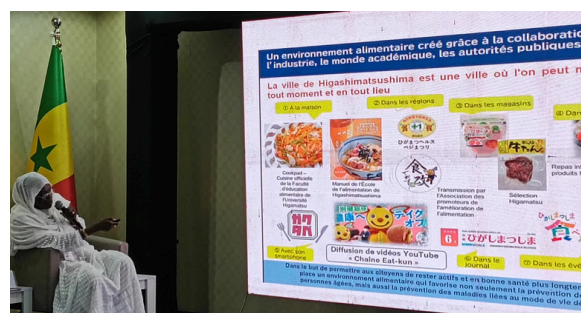
2026年1月28日、第8回日本保健セクター協力合同調整委員会（COPIL）において、アールウチMNTは、プロジェクト開始から2年半の成果を報告しました。これまでに、患者への分かりやすい指導（治療教育）や医療従事者の能力向上、地域住民の参加を促すためのガイドや教材の作成を行ってきました。また、ジュルベル州で実施した教員向け研修は、教育分野と連携した新しい取組の第一歩となりました。さらに、日本での研修を通じて、他国の取組からも多くの学びを得ました。今後もプロジェクトは残り2年半の活動を通じて、NCDs対策のさらなる強化を目指していきます。



NCDs課長、Aaru ci MNTプロジェクト総括、JICA事務所保健担当者、DIEM局長による意見交換

## 第4回NCDs全国シンポジウム：健康の公平性とNCDs対策

2025年10月の日本での研修参加者が、このシンポジウムの中で、研修の学びや経験を共有しました。日本では、NCDsの予防や治療に関する政策や法律が、都道府県や市町村のレベルで具体的に実施されています。各自治体は、法律と国の方針をもとに、地域の状況に合わせて工夫しながら取り組みを進めています。こうした事例から、さまざまな分野が協力する多部門連携や、地域住民が主体となる活動の重要性への理解が深まりました。また、意見交換を通じて、患者教育や住民参加、そしてすべての人が必要な医療を受けられる仕組み（UHC）にNCDs対策を組み込むことの重要性についても、理解が一層深まりました。



学校現場における食育に関する経験の共有